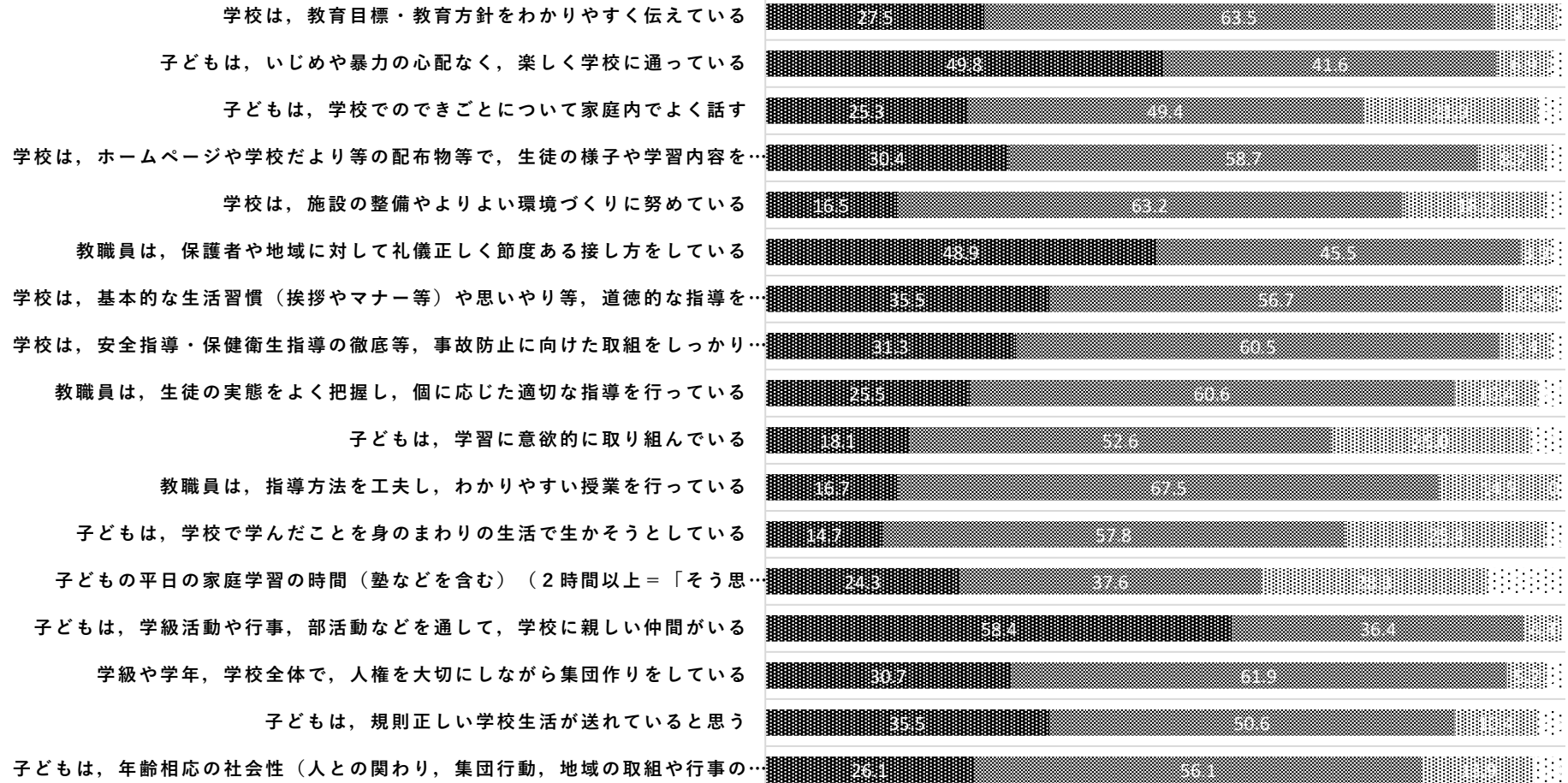


令和4年度 前期（7月）学校評価アンケート結果

【生徒】



【保護者】



令和4年度 前期（7月）学校評価アンケート分析

■こころのつながり：人を成長させる学校作り【自立・貢献】

- ・「学校や社会の決まりを守っている」

生徒全体では、「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると95.9%が「守れている」と答え、保護者も86.1%が同様に感じておられる。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	53%	42.9%	3.6%	0.5%
保護者	35.5%	50.6%	10.4%	3.5%

- ・「生徒会を中心に自分たちで活動する雰囲気が作られている」

生徒全体は、「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると89.9%が肯定的に答えており、本校の規範意識は、生徒自らの行動により築かれている様子がうかがえる。それは、本校が力を入れている、生徒会を中心にした生徒による集団活動や、道徳などの心を育てる学習活動の効果が現れていると考えられる。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	40%	49.8%	8.7%	1.5%

- ・「学級や部活動、授業の中で、自分の努力は認められている」

生徒全体は、「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると、83%が「認められている」と答えており、生徒に寄り添う教職員の姿が普段の授業や道徳、人権学習や学級活動、そして、生徒会活動などのそれぞれの場面で生きていることがわかる。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	30.5%	52.5%	13.6%	3.4%

- ・「困ったことや悩みがあるときに、相談できる先生がいる」

生徒全体は、「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると86.2%の生徒が「相談できる」と答えており、「信頼関係」が構築されていることがわかる。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	47.1%	39.1%	9.2%	4.6%

- ・「友人や他の人に対して、思いやりのある行動がとれている」

生徒全体、「そう思う」、「大体そう思う」をあわせると94.7%が、人を思いやる行動をとっていると答えている。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	45.4%	49.3%	4.6%	0.7%

- ・「自分の学校や地域に誇りをもち、大切に思っている」

生徒全体、「そう思う」、「大体そう思う」をあわせると 89.3%が、学校や地域を大切にしていると答えている。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	47.9%	41.4%	8%	2.7%

【今後の取組について】

本校は、校是である、【自立】【貢献】を目標に、生徒のこころのつながりを大切にした、人権が保障される「豊かな心（徳）」を育成する「人を成長させる学校」作りに取り組んでいる。

本校生徒は、学校や社会の決まりを守ることを大切にし、そして、学校生活を生徒会が中心に生徒自らの規範意識の高い行動により、落ち着いた学校を築いている。それらの努力を支える、教職員の支援により、学級や部活動、授業の中で、自分の努力が認められていると生徒全体の 83% 肯定的に答えている。何よりも「困ったことや悩みがあるときに、相談できる先生がいる」の全体数値は、86.2%の生徒が「相談できる」と答えており、高い「信頼関係」が構築されていることがわかる。この関係こそが、本校の強みであり、生徒に自己有用感をはぐくむと考えている。

しかし、約 15 人（4.1%）の生徒が学校や社会の決まりを守れていないと答えている。そして、約 100 人（17%）の生徒が、「自分は認められている」と思わないと回答しており、さらに、約 51 人（13.8%）の生徒が、それぞれの困りや悩みを先生に打ち明けられずにいる現状がある。これらの生徒の状況を真摯に受け止め、さらに、生徒会活動や学級、部活動などの集団活動を通して、「個を集団で支える教育活動」を進め、学校や社会の一員としての自己有用感をもたせる必要がある。「こころのつながり」は、人を成長させることにつながる。本校の強みである、「信頼関係」を基盤に、人を成長させる学校づくりを進めたい。

自分の学校や地域に、89.3%の生徒が誇りをもち大切に思っている。友人や他の人に対して、思いやりのある行動がとれると 94.7%の生徒が回答しており、基本的な優しさや思いやりをはぐくんでいる。それは、地域行事や地域の見守りなどの“思い”や“つながり”により、豊かな感性や情操がはぐくまれていると感じる。しかし、ここ 2 年間は、コロナ禍により、学校や地域の行事が自粛傾向にある中で、「学校」をセーフティーネットワークとして機能させ、集団を意識した活動により、人間尊重の精神による多様な価値観を認められる姿勢をはぐくみたい。

■「学力・進路の保障」を目指して：【自立】

【授業改善】

- ・「授業はわかりやすく、興味のもてる内容である」

生徒全体は、89.1%の生徒が、「授業がわかりやすい」と答えている。保護者についても、84.2%の評価をいただいている。ただ、10%近くの生徒が授業をわかりづらいと答えており、教材研究や生徒にわかりやすい発問等を考えるなど、今後の授業改善に生かしていかなければならない評価である。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	40.7%	48.4%	8.7%	2.2%
保護者	16.7%	67.5%	14.9%	0.9%

【主体的・対話的で深い学び】

- ・「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力がついてきた」

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	37.8%	51.6%	8.5%	2.2%

- ・「子どもは、学校で学んだことを身のまわりの生活で生かそうとしている」

「主体的・対話的で深い学び」が定着をしていっているのかを図る大切な指標である。特に、保護者へのアンケートは、学びが家庭で生かされているのかを問うものであり、客観的な数値として重要である。「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると、72.4%が学校での学びを身のまわりや生活に生かそうとする姿を見取っていただいておりますが、27.6%が「あまりそう思わない」「そう思わない」と考えており、学校の学び、「主体的・対話的」な学びを定着させ、そして、「深い学び」につながるように授業改善を進めたい。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
保護者	14.7%	57.7%	25.4%	2.2%

【家庭学習】

- ・「平日の学習時間（2時間以上＝「そう思う」 1時間以上＝「大体そう思う」 1時間未満＝「あまりそう思わない」ほとんどしない＝「そう思わない」）」

生徒・保護者共に、おおむね同じような数値になっている。「ほとんどしない」と答えている生徒が13.3%あり、0%になるように家庭学習の入口は教室の授業と考え、見直しと改善を進め、家庭学習の定着を図りたい。

	「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
生徒全体	27.1%	35.8%	23.7%	13.3%
保護者	24.3%	37.6%	28.3%	9.7%

【今後の取組について】

これらの結果を基に、どのような改善ができるのかを具体的に考えていきたい。【授業改善】は、10%近くが授業をわかりづらいと答えており、「全員がわかる授業」となるように授業改善を進めたい。特に、基礎・基本を定着させる段階では、友だちと学び合うことなど、学びをあきらめないうで自分の内面にしっかりと向き合うことができる学習環境が大切であり、全ての生徒に学力向上が図れるように取り組みたい。【主体的・対話的で深い学び】では、学校での学びが、社会や生活で生かされるように、生徒の体験や身の回りに興味関心をもたせる授業を研究、実践する必要があると感じている。【家庭学習】平日の学習時間の「ほとんどしない」を0%にするため、教室の授業に興味・関心をもて、楽しいと感じられることが大切であり、見直しと改善を進めたい。